

要介護になっても地域で暮らすために

地域サロン活動の担い手を「あつたかサポーター養成講座」

地域サロン活動の担い手養成を目的に、北見市と市社会福祉協議会主催の「あつたかサポーター養成講座」が5日、市総合福祉会館で開かれた。道認知症介護指導者の青山由美子さんが講演し「自分が要介護になっても地域で暮らせるように元気がうちから助け合



い」と呼び掛けた。青山さんは市新生町にある地域サロン「地域食堂・きたほつと」を運営しており毎月2回、地域住民の交流機会を設けている。

北見市と市社協が開催

「向こう三軒両隣」の付き合いが理想です」とした。

また、地域サロンに求められていることについて「地域住民のたまり場で、みんなで会話をして笑うだけでもいいと思います。それが助け合いの地域づくりにつながります」とし、参加した52人にとを望む人が多いと紹介。「要介護になっても地域で暮らすには、地域住民の協力が不可欠。

広告のご用命は  
伝書鳩(2015)へ  
011-343-3628へ